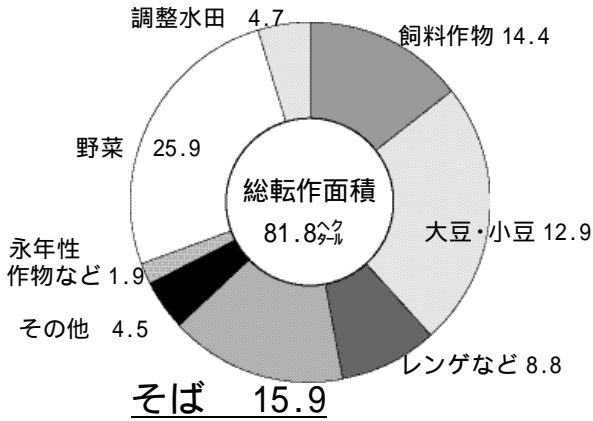


平成14年町転作作物割合内訳（単位：％）



下穂の水田はそばの花でいっぱい（9月ごろ）

用してそばや大豆を栽培するようになりました。
町全体では、平成13年が10％、平成14年には13％とそば栽培が年々増加しています。

日野郡のそば栽培面積は、平成12年が14％、平成13年が47％、平成14年が77％と年々増加し、県全体の37・4％を占める割合までになりました。郡内では高齢化が進み、手間のあまりかからない（8月に種をまき、10月下旬ごろから収穫、約3か月程度の期間）そばが、転作作物として農家に推奨されています。

郡内では77％の面積
県37・4％を占める

収穫されたそばは、町農林振興公社に出荷され、公社から根雨宿二番館（そば道場）「たたらや」や町外の業者、個人などに販売されています。

日野郡のそば栽培面積（単位：ヘクタール）

	平成12年	平成13年	平成14年
日野町	1	10	13
日南町	7	20	45
江府町	2	10	7
溝口町	4	7	12
県全体	116	208	206



町農林振興公社事務局長
田口 仁さん（下穂）

転作田を活用した栽培面積拡大や広域的な交流事業からそばを通じて町を活性化させていきたいです。今後は「そば茶」「そば飯」「そばがゆ」など新しい商品を開発して地産地消を進めていきます。地元住民には、そば食の意識を高めてほしいです。



郡内のそば処マップを発行

日野郡広域で
そば振興を推進

日野郡産そばの消費拡大を図ろうと、昨年の3月、日野郡そば研究会（竹本勝幸会長、県日野総合事務所農林局農業振興課長）が設立されました。県総合事務所が呼びかけ、県、郡内4町、鳥取西部農協

商工会、食生活改善推進協議会、料飲業生活衛生同業組合など10団体で研究会を設立。食生活改善推進委員を通じて家庭での普及、観光面から旅館、料理店などでの普及を図ろうと、そば打ち体験、そば料理コンテストなどを開いた



根雨宿二番館「たたらや」
石田茂雄さん（黒坂）

町内産そば粉と相性の良い地元の水を使うことにこだわっています。いつまでもこだわり続け、多くのお客さんに、そばの魅力を伝えていきたいです。ぜひご来店ください。家庭では、素朴な味が楽しめる「そばがき」をお勧めします。

り、郡産そば粉を使った店を紹介する「日野郡のそば処」（そばマップ）を作製し、地産地消と観光面で、そばの消費拡大に取り組んでいます。

豊かな自然が
おいしいそばを育む

豊かな自然に恵まれた日野郡は、昼と夜の温度差が大きいことや土地の排水が良いなどの条件を満たしており、おいしいそばの栽培に適していると言えます。

また、そばは、良質のタンパク質やビタミン類（特にビタミンB）を豊富に含み、心臓病予防や食欲不振の解消などにたくさんの効果がある食品として注目されています。